

2021年10月22日

各位

上場会社名 東京製鐵株式会社  
 代表者 代表取締役社長 西本 利一  
 (コード番号 5423)  
 問合せ先責任者 取締役常務執行役員  
 (総務部長) 奈良 暢明  
 (TEL 03-3501-7721)

## 業績予想及び配当予想の修正並びに剰余金の配当に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり2021年7月21日に公表した2022年3月期通期個別業績予想及び配当予想について下記の通り修正するとともに、2021年9月30日を基準とする剰余金の配当を決議いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2022年3月期通期個別業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	244,000	22,000	22,000	19,000	158.88
今回修正予想(B)	274,000	31,000	32,000	28,000	236.01
増減額(B-A)	30,000	9,000	10,000	9,000	—
増減率(%)	12.3	40.9	45.5	47.4	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	141,448	3,995	4,994	5,889	48.04

#### 個別業績予想数値修正の理由

今後の見通しといたしましては、世界最大の鉄鋼生産国である中国において環境対策として生産抑制が行われるなど、海外の鋼材需給は引き締まった状態が継続すると見込まれます。国内においても、都市再開発や物流倉庫などの大型建築物の物件により、来年度に向け鋼材需要は堅調に推移すると期待されます。当社におきましては、主原料である鉄スクラップ価格の高止まりに加えて、エネルギーコストや諸資材価格の高騰が懸念されるものの、販売価格の値上げを反映して、製品出荷単価が2008年以来の10万円を超える水準となる見通しとなり、利益幅がさらに拡大することが見込まれます。

以上のような次第から、2021年7月21日公表の通期業績予想について見直しをいたします。

なお上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しております。実際の業績は、主原料である鉄スクラップ価格、鋼材の市況等により変動する可能性があります。

#### 2. 2022年3月期配当予想の修正

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (2021年7月21日発表)	円 銭 —	円 銭 8.00	円 銭 —	円 銭 8.00	円 銭 16.00
今回修正予想	—	—	—	15.00	25.00
当期実績	—	10.00			
前期実績 (2021年3月期)	—	8.00	—	8.00	16.00

#### 配当予想修正の理由

当社は、利益配分の基本方針としては、一定の株主還元を保つという考え方を採るのではなく、総還元性向は業績に応じて決定することを原則としてまいりました。今般、通期の業績が、従前予想を上回る見通しとなったことから、2021年7月21日に公表いたしました中間配当予想を2円増額し、1株当たり10円とし、期末配当予想を7円増額し、1株当たり15円に修正いたします。この結果、1株当たりの年間配当金は、25円となる予定です。

### 3. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2021年7月21日公表)	前期実績 (2021年3月期中間配当)
基準日	2021年9月30日	同左	2020年9月30日
1株当たり配当金	10円00銭	8円00銭	8円00銭
配当金の総額	1,186百万円	—	982百万円
効力発生日	2021年11月22日	—	2020年11月24日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

以上